日基松情報	宇部	工業高等	<u>専</u> 門学	校	開講年度	平成29年度((2017年度)		業科目	情報通	信ネットワ	<u> </u>	
日番号								•					
選手機	科目番号		0020)			科目区分		専門/選	 张			
2007 対象	受業形態						7 11 11 11	·単位数	† · ·				
説明 説明 対象 対象 対象 対象 対象 対象 対象 対													
野田の					工 1 分入		7 3 - 3 · 3 · 1						
当教員			13.27.12		: (岩油/211) =	短时间数							
		(4%)			型信(石波保則、コロナ社)								
(1) アナログ目の実践の基本的な計画からきる。 (2) 振幅変調のスペクトルについて計画ができる。 (3) 循胞帯通信について計画ができる。 (4) 10 アナログ信号の変調の基本のな計算ができる。 (2) 振幅変調のスペクトルについて計算できる。 (3) 御服帯通信について計算ができる。 (4) アナログ信号の変調の基本 (こりに対算ができる。 (5) 小阪帯通信について計算できる。 (6) 小阪帯通信について計算できる。 (7) 小阪帯通信について計算できる。 (7) 小阪帯通信について対算ができる。 (8) 小田の中では、海洋のできる。 (8) 一般の対理ができる。 (8) 一般の対理が必要であるが、特にフーリエ変機の知識が必要である。 (9) 日間のためのいが、トを護す。 (9) 日間のためのいが、トを護す。 (9) 日間のためのが、日間のいでは対する。 (9) 日間の必要性について説明する。 (9) 日間の必要性について説明する。 (9) 日間の表別の必要性について説明する。 (9) 日間の表別の影がの対象が対象の対理が必要である。 (9) 日間の表別の影がの対理が必要がある。 (9) 日間の表別の影がの対理が対象が表別の変異などのいて説明する。 (9) 日間の表別の影がの対理が対象が表別の変異などのいて説明する。 (9) 日間の表別の影響がの対しいて説明する。 (9) 日間の説を表ののの変異について説明する。 (9) 日間の説を表ののの変異について計算できる。 (9) 日間の表別の影響ができる。 (9) 日間の表別の影響が対象の変異などのいて説明する。 (9) 日間の表別の影響ができる。 (9) 日間の表別の影響ができる。 (9) 日間の影響ができる。 (9) 日間の影響が発展のスペクトルについて計算できる。 (9) 日間の影響が発展の表のペクトルについて計算できる。 (9) 日間の影響が発展の表のペクトルについて計算できる。 (9) 日間の表別の影響ができる。 (9) 日間の影響が発展のスペクトルについて計算できる。 (9) 日間の影響が発展の表について計算できる。 (9) 日間の影響が発展の表について計算できる。 (9) 日間の影響が発展のスペクトルについて説明する。 (9) 日間の影響が発展の表について説明する。 (9) 日間の影響が発展の影響が表について説明する。 (9) 日間の影響が発展のスペクトルについて説明する。 (9) 日間の影響が発展のスペクトルについて説明する。 (9) 日間の影響が発展のスペクトルについて説明する。 (9) 日間の影響が発展の表について説明する。 (9) 日間の影響が表にいて記録する。 (9) 日間の影響の影響が表にいていますできるが、特別を表にいていますできる。 (9) 日間の影響の影響が表にいていますできるが、特別を表にいていますできる。 (9) 日間の影響の影響の影響の影響の影響の影響の影響の影響の影響の影響の影響の影響の影響の			==	吊吋									
2.2 無常意調のスペクトルについて計算ができる。 (2) 原稿度調のスペクトルについて計算できる。 (2) 原稿度調のスペクトルについて計算できる。 (2) 原稿度調のスペクトルについて計算できる。 (3) 観歌神通信について計算できる。 (2) 原稿度調のスペクトルについて計算できる。 (3) 観歌神通信について計算ができる。 (2) 原稿度調のスペクトルについて計算できる。 (3) 観歌神通信について計算ができる。 (3) 観歌神通位について記事ができる。 (4) 原稿度 (4) 原稿を開かてきる。 (4) 原稿度 (4)	<u> </u>	票											
理想的な影性・ハルの自安 根理的な影性・ハルの自安 根理・カントの自安(可) 未割性 トバルの自安 大力に自己自己の変別の基本 アナログ信号の変別の基本 アナログ信号の変別の基本 アナログ信号の変別の基本 お計算ができる。 基本的計算ができる。 基本的計算ができる。 基本的計算ができる。 場所ができ、 基本的計算ができる。 場所ができ、 場所ができ。 場所ができ、 場所ができ。 場所はかできる。 場所ははまからネネ・風味性を持って発展しており。 その本質を理解しました。 またしいては自らの原理は基本からネネ・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・	(2)振帧 (3)側‰ できる。	福変調のス/ 皮帯通信にて (3)側波	ペクトル ついて計	について 算ができ	計算ができる。 る。 (1)		周の基本的な計算	算ができる	。(2)	振幅変調の	のスペクトルに	こついて計算か	
価項目1 アナログ信号の変調の基本 について誘導・解析できる。	レーブリ	<u> </u>		田相的が	2列達しべまの	ヨ安 煙準的お到	きしべしの日安	到達しへ		'司)			
(回項目1 について誘導・熱析ができ 。									到達し、(700日女(日)		1		
「「	評価項目1			について誘導・解析ができ 、基本的計算ができる。		でき「について計算	について計算ができ、基本				アナログ信号の変調の基本 的計算ができない。		
個項目	平価項目2		いて誘導	‡・解析ができ、	. 基 │いて解析が‐	いて解析ができ、基本的計 1				振幅変調のスペクトルの基本的計算ができない。			
150 15	評価項目3 解			側波帯通解析がで	- 発信について誘導	尊・ 側波帯通信(側波帯通信について解析が でき、基本的計算ができる			て基本的			
接着		小李口梅时				•		ļ					
現有			3HC0	<u> / 川渕1糸</u>									
第4 学期間講演信用学の範囲は非常に広いが、本講義は情報通信ネットワークに関する基礎に関するものである。世界標準化され													
数式の導出が主になるので、数式の変形に慣れておく必要がある。 接業内容 過ごとの到達目標 過ごとの到達目標 過ごとの到達目標 1週 講義の概要とその進め方および評価方法について説明する。		め方・方法	れば 自学 課 ルポ 情報	、 今後の 自習のた に付いて ートの内 工学の知	新しい技術の別がある。 めのレポートをは自らの探求を 容を試験範囲に 識が必要である。	引発も可能となる。 対課す。 対象のる。 ご含める。 3。							
担		-	数式	数子主放 の導出が	主になるので、	対域が必要である数式の変形に慣れ	これ、特にフーリスである。	71. 変換の	大山 邮 八	を			
13世 講義の概要とその進め方および評価方法について説明 する。	党 業計画	<u> </u>	l vm	1=: 111	4.1.			\	- =:::= ==	-			
1stQ する。 2週 変調の必要性について説明する。 アナログ信号の変調の基本について計算できる。 3週 変調液の波形について説明する。 アナログ信号の変調の基本について計算できる。 3週 変調液の波形について説明する。 アナログ信号の変調の基本について計算できる。 5週 変調度について説明する。 振幅変調のスペクトルについて計算できる。 振幅変調の周波数スペクトルについて説明する。 振幅変調のスペクトルについて計算できる。 7週 搬送波と側帯波の電力について説明する。			週	3221	. , , ,				の到達日	<u> </u>			
1stQ 変調の必要性について説明する。			1週										
1stQ 2回数の波形について説明する。			23⊞			・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		7+5	フナログ信号の本語の甘ナについても、ゲスナス				
1stQ 接觸変調波の液形について説明する。	前期												
1stQ 25週 変調度について説明する。 振幅変調のスペクトルについて計算できる。													
5週		1stQ					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
打選 搬送波と側帯波の電力について説明する。 搬送波と側帯波の電力について計算できる。 特間領域から周波数領域への変換について説明する。 特間領域から周波数領域への変換について計算できる。 特間領域から周波数スペクトルについて計算できる。 10週 複素周波数スペクトルについて説明する。 11週 デルタ関数について説明する。 7ルス列の周波数スペクトルについて計算できる。 11週 デルタ関数について説明する。 7ルタ関数について計算できる。 12週 搬送波抑圧振幅変調について説明する。 7ルタ関数について計算できる。 13週 両側波帯圧縮搬送波について説明する。 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 14週 両側波帯圧縮搬送波について説明する。 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 15週 定期試験 16週 答案返却・解答解説 16週 答案返却・解答解説 16週 答案返却・解答解説 16週 答案返却・解答解説 16週 答案返却・解答解説 1100 日本 100 100 日本 100 100 100 100 100 100 100 1													
おり 日間領域から周波数領域への変換について説明する。									振幅変調のスペクトルについて計算できる。				
Pilling (7週	搬送	送波と側帯波の	電力について説明で	力について説明する。		搬送波と側帯波の電力について計算できる。				
9週 パルス列の周波数スペクトルについて説明する。			8週	時間	間領域から周波数領域への変換について説明する。			時間領	時間領域から周波数領域への変換について計算できる				
2ndQ 複素周波数スペクトルについて説明する。 複素周波数スペクトルについて計算できる。 11週 デルタ関数について説明する。 デルタ関数について計算できる。 12週 搬送波抑圧振幅変調について計算できる。 13週 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 13週 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 14週 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 15週 定期試験 16週 答案返却・解答解説 デルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 学習内容の到達目標 対類 学習内容 学習内容の到達目標 中価割合 ア価割合 13験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 会評価割合 0 <td>-, 43</td> <td></td> <td>O;E</td> <td>11011</td> <td>フ列の国連券</td> <td>フペクトリについ</td> <td colspan="2">7トルについて説明する</td> <td>別の国か</td> <td>物フペクし</td> <td>、ルたついて®</td> <td>+笛でキュ</td>	-, 43		O;E	11011	フ列の国連券	フペクトリについ	7トルについて説明する		別の国か	物フペクし	、ルたついて ®	+笛でキュ	
2ndQ 11週 デルタ関数について説明する。 デルタ関数について計算できる。 12週 搬送波抑圧振幅変調について説明する。 面側波帯圧縮搬送波について計算できる。 13週 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 14週 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 15週 定期試験 自6週 学習内容と到達目標 対野 学習内容 学習内容の到達目標 型達レベル 授業週 P価割合 取験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 会評価割合 の <td rows<="" td=""><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td colspan="4"></td></td>	<td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="4"></td>				1								
2ndQ 12週 搬送波抑圧振幅変調について説明する。 搬送波抑圧振幅変調について計算できる。 13週 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 14週 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 15週 定期試験 16週 答案返却・解答解説 正デルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 学習内容 学習内容の到達目標 対類 学習内容 学習内容の到達目標 型達レベル 授業週野価割合 「試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 公評価割合 0 0<													
2ndQ 13週 両側波帯圧縮搬送波について説明する。 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 14週 両側波帯圧縮搬送波について説明する。 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 15週 定期試験 モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 対野 学習内容 学習内容の到達目標 ・ 到達レベル 授業週界価割合 F価割合 0													
13週 両側波帯圧縮搬送波について説明する。 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 14週 両側波帯圧縮搬送波について説明する。 両側波帯圧縮搬送波について計算できる。 15週 定期試験 16週 答案返却・解答解説		2ndO							1 1 1				
15週 定期試験 16週 答案返却・解答解説													
16週 答案返却・解答解説				両側	両側波帯圧縮搬送波について説明する。								
デルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 評価割合 対野 学習内容 学習内容の到達目標 対験 学習内容の到達目標 対験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 合計 合評価割合 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			15週	定期試験									
対野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 評価割合			16週	答案	逐辺却・解答解:	说							
対野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 評価割合	デルニ	コアカリキ	Fユラ	ムの学習	図内容と到達 図内容と到達	 E目標							
F価割合	<u>- / / / -</u> }類	']標				到達レベル	ル 授業调	
試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 合評価割合 0 0 0 0 0 0 疑的能力 1 0 0 0 0 0 0 0 0 評的能力 0 0 0 0 0 0 0		 ≥	175		1, 10, 11	」 , 口, ,口 -/ +1左上					1-1/	- 11	
総合評価割合 0 0 0 0 0 0 日礎的能力 1 0 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0	「川川市」に		E全	9	×=	担万=亚/平	能在		L ¬ - 1 1 -	₽ ¬ ¬ ∩ ′′	h 1/	≻ ≡∔	
E礎的能力 1 0 0 0 0 0 0 0 0 評的能力 0 0 0 0 0 0	_==:/==		映						トノオリス				
門的能力 0 0 0 0 0 0 0						_	_						
			υυ										
野横断的能力 0 0 0 0 0 0						- -							
	}野横断的	的能力 0		0)	0	0	0		0	0	<u> </u>	